

言葉と音楽の空間

多和田葉子著、山口裕之訳
『遠くから来たきみの友だち』
晩成書房、2025年

多和田葉子による子どものための音楽劇の台本 *Deine Freunde aus der Ferne* の翻訳が、一冊の本というかたちをとって出版される——このこと自体、多和田葉子の読者であり、翻訳にも携わっている人間として、もちろんとてもうれしいことであり、ありがたいことだ。しかし、それとともに、細川俊夫の創作と結びついて生まれてきたドイツ語のこのテキストが、日本語という表現をとることになり、そしてその翻訳された日本語によって演奏されることにもなるという、この作品がたどってきた流れを回顧してゆくと、単なる感慨を越えた不思議な感覚を抱いてしまう。

はじめは、ルクセンブルクの現代音楽アンサンブル・ルシリン (United Instruments of Lucilin) から、細川俊夫が子どものための音楽劇の作曲を依頼されたことだった。細川は当初、自分の音楽は子どもにとっては難解なのではないかと考え、依頼を断ったのだが、さらに説得されて引き受けることになり、その台本を多和田葉子にお願いすることになった。2019年9月のことである。そして、多和田さんがこのテキストを完成させたのが、おそらく2020年10月、このテキストのことで細川俊夫さんは一度私とお話をする機会をもつことになり、2021年2月初めに東京外国語大学でお会いした。この年に作曲が進められ、2021年12月4日にルクセンブルクで初演される。残念ながら私自身はその初演の場に居合わせることはできなかったが、ザローメ・カマーの語りとパフォーマンス、そしてルシリンの演奏によるこの公演は、収録された映像によって観ることができた。

そのあともこの作品は、シュトゥットガルト、チューリヒ、またスペイン (スペイン語に翻訳されたようだ) でも上演されることになったが、2025年4月4日に東京 (成城ホール) で公演をおこなうことになった。かねてから細川俊夫作品と深い関わりを持っていたピアニストの北村朋幹が中心となり、上野通明 (チェロ) や上野由恵 (フルート) をはじめとする若いすぐれた演奏家たちが日本初演に向けて企画を進めることになったようである。その公演のための日本語への翻訳を、多和田さんの推薦もあったようで私が引き受けさせていただくことになったという次第である。私としては、もちろん喜んで引き受けさせていただくとしても、多和田さんの作品の翻訳がこの一公演だけにとどまるのは少しもったいないと思い、多和田さんの了解をいただいて独自に出版の企画を進めることにした。出版社として晩成書房を選んだのは、多和田さんのご希望によるものだ。晩成書房は学校教育の場での演劇に力をいれている出版社で、さまざまな場でこの作品が子どもたちの演じるものとして受け入れられてゆくことを多和田さんは思い描いていたのかもしれない。

2025年4月4日の公演に向けて、ピアノの北村朋幹さん、語りを担当したソプラノの



藤井玲南さんと打ち合せを行うとともに、リハーサルの場にもご一緒させていただいた。そのときに、とくに藤井さんからいくつかの提案をいただいて、翻訳を修正してゆくということもあった。翻訳しているときには、もちろんドイツ語の言葉の感覚を感じ取りながら日本語で表現していこうとしていたわけだが、そのときにはとりわけ、実際に舞台上で朗読される言葉、しかも子どもたちが聞いて受けとめる言葉を想定しながら翻訳していた。しかし、文字として定着してしまったものを見てみると、正直に言って、自分でもなかなか満足がいかないところがそれなりにあった。しかし、細川さんからさまざまな指示も出された直前の全体リハーサルを通じて作り上げられ、本番の舞台上でほぼ満員の聴衆を前に演じられた藤井玲南さんの語りは、音楽家たちの演奏とともに、ほんとうにすばらしいものだった。自分の言葉がこのように実際の声となって空間の中に生まれてゆくことに身をゆだねるといえるのは、やはり特別の経験である。言葉は声となって生まれてゆくものなのだ。そういう意味で、ここに本となって手に取ることができるものは、いわば演奏されるための楽譜のようなものなのではないかとも思う。

実際の公演では、子どもが聞くには長すぎるということもあり、テキスト全体のうちある程度の部分をカットしている。これは、他のドイツ語圏の公演についても当てはまることで、初演の際にはもともとのドイツ語のテキストも、省略だけでなく、部分的に書き換えられていた。日本語の翻訳『遠くから来たきみの友だち』では、多和田葉子のもともとのテキストの全体が収録されている。いまのところ、ドイツ語のオリジナルのテキストはまだ出版されていないが、多和田さんによると、そのうち他の作品とともにドイツで刊行されることになるだろうとのことだ。



(山口裕之)